



千葉市図書館情報ネットワーク協議会 20周年記念講演会報告

千葉市生涯学習センターにて、千葉市図書館情報ネットワーク協議会 20周年記念講演会「図書館における情報ネットワークの意義と必要性」を開催しました。講演会には、一般公募を含め、38人の方々にご参加いただきました。

前日までの不安定な天気が嘘のような晴天のなか、図書館界で幅広く活躍されている常世田良氏(立命館大学教授)をお招きし、豊富な知識と経験がぎゅっと詰まったご講演をいただき、大変貴重な時間となりました。また、当協議会設立当初のメンバーでいらっしゃる藤井武彦氏(元敬愛大学メディアセンター職員)にお越しいただき、現メンバーと常世田氏を交えての当協議会の意義と今後について熱く意見を交わし今後の当ネットワーク協議会の在り方についてそれぞれが改めて考えることができました。20周年にふさわしい非常に有意義な講演会となりました。



千葉市生涯学習センター メディアエッグ

日時 平成 26 年 10 月 24 日(金) 9 時 30 分～12 時 00 分:講演会・座談会

会場 千葉市生涯学習センター メディアエッグ(地下 1 階)

テーマ 「図書館における情報ネットワークの意義と必要性」

講師 常世田 良氏(立命館大学教授)

座談会 「千葉市図書館情報ネットワーク協議会の意義と今後」

出席者 齊藤 誠一(千葉経済大学短期大学部 コーディネーター)

常世田 良(立命館大学教授 アドバイザー)

藤井 武彦(元敬愛大学メディアセンター職員・当協議会設立当初のメンバー)

秋葉 千恵(千葉市中央図書館職員 当協議会事務局員)



1/常世田氏の講演会の様子。

2/座談会の様子。

3/藤井氏の座談会の様子。藤井氏より、当協議会設立の経緯、当時そこいなければ分からなかった裏話など、図書館の横のつながりを作るまでの様々な出来事についてお話しいただきました。講演会に続いて常世田氏にご出席いただき、当協議会の意義と今後についてご意見をいただきました。

4/常世田氏の講演会の様子。アメリカの事例を参考に、図書館の流通やこれからの図書館について写真を交えてお話しいただきました。

講演会報告

「20周年記念講演会

『図書館における情報ネットワークの意義と必要性』を聞いて

放射線医学総合研究所

耳塚 良史

“人事交流や得意分野の提供といった加盟館間の支援は是非実践すべき”

20周年記念講演会

平成26年10月24日(金)、千葉市生涯学習センターメディアエッグ内において、立命館大学教授の常世田 良氏を講師にお迎えし、「図書館における情報ネットワークの意義と必要性」と題した千葉市図書館情報ネットワーク協議会(以下協議会)20周年記念講演会が開催されました。この度本講演会を聴講する機会に恵まれましたので、以下に感想を述べさせていただきます。

講師の常世田氏は浦安市図書館館長、同市教育委員会生涯学習部次長、社団法人日本図書館協会理事・事務局次長を経て現職を務める傍ら、長崎県立図書館新図書館整備に関する専門家会議委員、堺市立図書館協議会会長、松戸市図書館整備計画審議会会長、特定非営利活動法人知的資源イニシアティブ理事も務めるなど、図書館界で幅広く活躍をされています。本講演会は随所に映像VTRや常世田氏のアメリカでの実体験が盛り込まれ、大変分かり易く興味深いものでした。



「反知性主義との戦い」

本講演会のサブテーマとして「反知性主義との戦い」が挙げられました。反知性主義とは一般に思想の組み立てや教養の構築を放棄し、考えることをやめちゃう状態であり、日本はこの状態に陥っていたとの説明がありました。確かに私自身、以前は綿々と受け継がれてきた業

務を疑問も持たずにこなしていた感があります。しかし近年は、組織としての危機感をスタッフが共有し、合理的かつ効率的な業務フローを模索し実践しているところ。講演でも、かつての日本においては、仕事は指示したやり方で成果を出すことが求められ、合理的かつ効率的であってもオリジナルのやり方では歯車が狂うとして評価を得ることが出来ませんでした。グローバル化が進み、柔軟な発想をする欧米諸国と渡り合うために反知性主義からの脱却が求められるようになったと述べられていました。現実と照らし合わせると、まさに講師の話には説得力があり大いに共感を覚えました。

多種多様なニーズに応えるためには図書館間の相互協力を行うためのネットワーク構築が不可欠

また講演半ばにおいて、図書館は反知性主義からの脱却のために不可欠な知識・情報を得ることのできる場として重要な役割を担っており、多種多様なニーズに応えるためには図書館間の相互協力を行うためのネットワーク構築が不可欠であるとの説明がありました。私が所属する放医研図書室も、利用者のニーズに応えるためには自館だけのリソースでは不十分であることを認識しており、文献複写を始めとする他館との協力関係は極めて重要と考えています。常世田氏は、館種を越えたネットワークの構築はポリシーなどの違いにより往々にして困難を伴うことが多く、本協議会のようなネットワークは全国的に見ても稀で先進的であると述べられました。放医研図書室は本協議会が発足した平成6年から加盟館として相互協力を行なってきましたが、本協議会のようなつながりは全国的に見て希少である、という事実には驚きを感じました。一方で、現状加盟館間の相互協力は限定的であり、残念ながら貴重なつながり

をフルに活用できているとは言い難く、率直に言って勿体無いと感じています。協議会は今年で発足20周年を迎え、相互貸借の物流ネットワーク構築という協議会発足当初の目的が大学図書館の一般開放や電子ジャーナルの普及などで達成されつつある今、協議会事務局でも停滞打破を目指して新たな取り組みを実行しようとしているところです。貴重なネットワークを存分に活かすためにも、講師が示された人事交流や得意分野の提供といった加盟館間の支援は是非実践すべきであると考えます。現在、放医研図書室としてもこの一端を担うべくIT技術支援という形で協力を行っています。今後こういった取り組みを足がかりに支援の輪が広がり、ゆくゆくは充実したネットワークとなることを望みます。



人・金・時間が「無い」は当たり前

常世田氏は最後に、児童文学のテーマ「弱い主人公が知恵を絞って困難に立ち向かう」を図書館が実践すべきであると述べられました。講演での言葉を借りるなら、近年は図書館に限らず人・金・時間が「無い」は当たり前のことです。これを出発点として思考停止せず、現状から前進できるよう意識して今後の業務に励みたいと思います。

遠方よりお越し下さり貴重で大変実のあるご講演をしていただいた常世田氏には心より御礼申し上げます。